

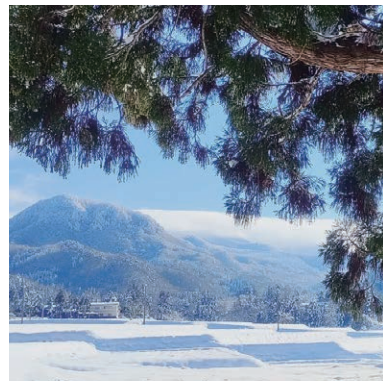
地域づくりの  
道しるべ

地域管理構想

計  
画

み  
ら  
い

田  
麦  
野



令和6年3月

田麦野地区

# 目 次

1.はじめに	2
2.「みらい計画」の使い方	2
3.地域について考える (強み / 弱み / 活用可能な資源 / 今後不安なこと)	3
4.取組の方向性と行動計画	4
5.空き家の取組について	5
6.農地の取組について	7
7.生活環境の取組について	9
8.資料	10
・検討の記録	10
・行動計画整理表	12

# 1. はじめに

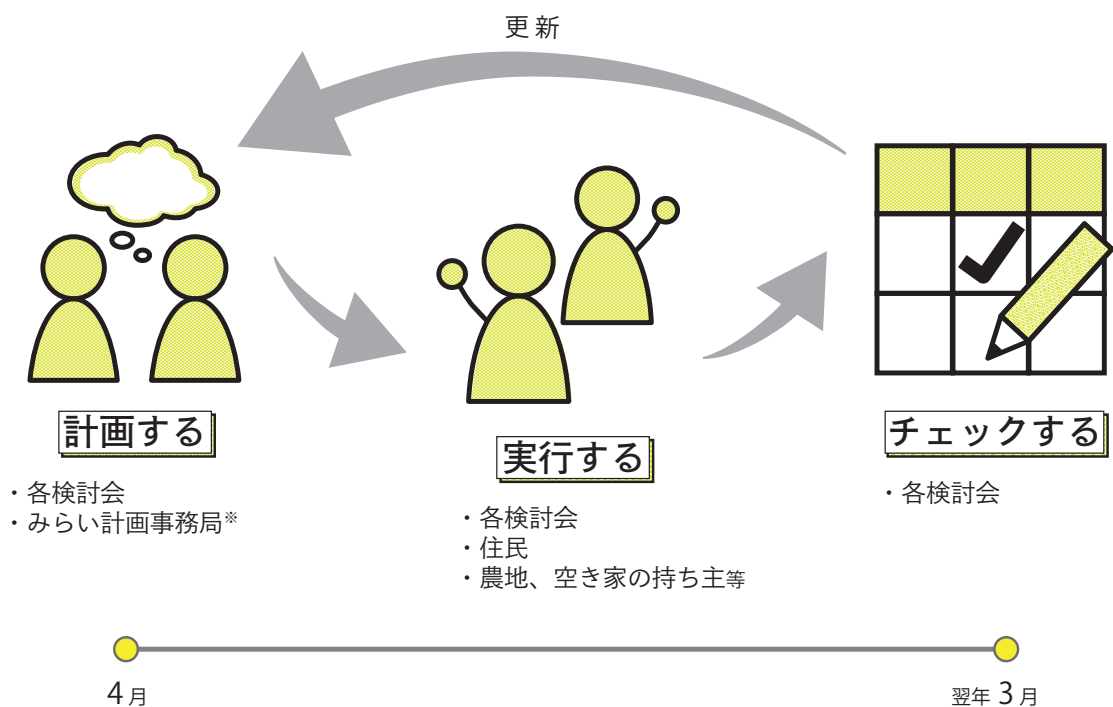
田麦野地区は山形県天童市の東に位置し、三方を山々に囲まれた中山間地域です。「タヌキノムラ」が転じて「田麦野」となったといわれており、四季を通して移り変わる自然や、やまがたの棚田 20 選の一つ「田麦野の棚田」など、里山の情景が残る美しい地域です。

しかし、人口減少や高齢化が進行し、耕作放棄地や空き家が目に見えて増えています。このまま問題を放置すれば安心して暮らせる環境を守ることができないという危機感から、地域で話し合いを重ね、今後の地域のあり方や構想を策定することとしました。

本地区は国土交通省が推進する「地域管理構想策定推進対策事業」第 2 例目のモデル地域に選定され、令和 4 年 8 月から 6 年 3 月まで 1 年半余にわたって、田麦野の「みらい」を考える懇談会として複数回の話し合いを重ねてきました。これまでの検討の経過や決定したことをこの「田麦野みらい計画」に取りまとめました。

この計画書をもとに、今後、計画を実行し、取り組んだことを振り返り、次の計画へと更新していくサイクルを継続することで、住み続けられる田麦野地区を目指します。

## 2. みらい計画の使い方



田麦野の「みらい」を考える懇談会で結成した①空き家、②農地、③生活環境の各検討会を今後も維持しながら、行動計画表(⇒ p.4)に記載した内容を実行していき、毎年度末に達成状況をチェックします。そして、次に必要なことは何か話し合いながら行動計画表を更新し、また実行するというサイクルを継続していくことで、よりよく暮らしていくために必要な環境を実現していきます。

なお、このサイクルの事務局\*は下記の 3 名が務めます。事務局の中で各検討会の進捗を共有し、検討会同士又は市との連携を必要に応じてサポートします。

※【みらい計画事務局】小座間(公民館長 / 空き家担当)、東海林(公民館主事 / 農地担当)、土井(地域おこし協力隊 / 生活環境担当)  
事務局メンバー及び役職は令和 6 年 3 月現在。

### 3. 地域について考える

第2回田麦野の「みらい」を考える懇談会では、地域の将来を考える第一段階として、参加者が感じる地域の強み・弱み・活用可能な資源・今後不安なことを出し合いました。

強 み	自然や景観	動物が見られる、棚田などの景色が良い、川の眺めが良い、空気がきれい、星空がきれい、水がきれい、豊かな自然が良い
	農業や産業	山菜が採れる、農地が多い、農作物が採れる
	暮らしやすさ	買い物ができる、近所付き合いが良い、交通手段がある、職場が近い、住みやすい、時間の流れがゆっくり、土地が広い、土地が安い
	地域の元気	移住者が増えている、芸工大と交流がある、高齢者が元気、団結力がある、住民同士つながりがある
	その他なんでも	地域文化を継承している

弱 み	農業や産業	休耕田が多い、鳥獣被害が多い
	暮らしやすさ	医師がいない、急病時の搬送が遅い、買い物しづらい、学校がない、獣が出る、交通が不便、仕事がない、子どもがいない、雪が多い、夜道が暗い、若者がいない
	後継者や人材	後継者がいない、所有者不明の土地がある、農地の活用ができない、人手不足、農地の管理が大変
	地域の元気	大人向けイベントが少ない、地域の情報が発信できていない、高齢者が多い、子どもがいない、人が少ない、地域活動が大変
	その他なんでも	田舎扱いされないか心配、地域文化の継承が必要

活 用 可 能 な 資 源	自然や景観	生き物（ヤマメ、イワナ、ホタル、ジビエ）、川、里山の自然、棚田、魅力的な田舎、山、湧水
	農業や産業	農泊・民宿としての空き家活用、スキーやキャンプができる遊び場、稲杭、温泉、天童高原に向かう観光客が立ち寄れる場、美味しい米、山菜、そば、山林の木材、森林、木の実を使ったお菓子、山林の木材、森林、農作物（高原ネギ、笹の葉、タケノコ、ウド）
	暮らしやすさ	空き地の有効活用
	地域の元気	移住者の呼び込み、地域活動（ぼんぼこ塾の活動）
	その他なんでも	天童高原、立地の良さ

今 後 不 安 な こ と	自然や景観	川沿いの杉による景観悪化
	農業や産業	鳥獣被害が増える、耕作放棄地の増化、地域文化の継承（杭掛け）が心配、ナラ林の管理
	暮らしやすさ	空き家の増加、空き家の倒壊が心配、医療面で不安だ、買い物しづらい、学校がない、獣が増えて怖い、公共交通機関がない、老後の不安、高齢者の一人暮らしが心配、免許返納後の生活が心配、子どもがいない、移住者への支援が必要、除雪が不十分、若者が定着しない
	後継者や人材	知識や技術の継承が心配、家や土地の後継者がいない、農地の管理が心配、担い手不足で地域活動に影響
	地域の元気	外部交流（芸工大生）が途絶えないか心配、高齢者と人口の減少、子どもや若者がいない、地域活動が大変、高齢者の見守りが心配
その他なんでも	今後目指す方向性を決めた方がいい、伝統行事の継承が難しい、来訪者のマナーが気になる	

## 4. 取組の方向性と行動計画

第3回田麦野の「みらい」を考える懇談会で挙げられた地域をよくする「提案」の中から、今後特に検討するべきだと思うテーマは何かを、住民全員を対象にアンケートを実施しました。

その結果、「**空家**」「**農地**」「**生活環境**」を今後重点的に取り組むテーマとし、各テーマの検討会で話し合いを重ね、地域としてどのように取り組んでいくかを具体的な行動計画としてまとめました。

### 行動計画表

令和6年3月

活動内容	実施主体	着手時期		
		R6	R7	R8
<b>【空き家の取組方針】 空き家の所有者を支援し、移住者の受け入れを促進する。</b>				
令和6年度中に地域内の賃貸物件を新たに2つ以上つくる。	空き家検討会	○		
賃貸・売却・活用の意向があった所有者を空き家バンクや市空き家相談窓口へつなぐ体制をつくり、持続的に支援する。	空き家検討会	○	○	○
天童市の空き家関連の補助金額を、中山間地域の実情に合った金額へ引き上げる要望を市へ提出する。	空き家検討会	○		
他地域で実施実績がある「お試し滞在施設」「移住促進住宅」等の事業を天童市でも実施する要望を市へ提出する。	空き家検討会	○	○	
<b>【農地の取組方針】 農地を守っていくため、より具体的な行動計画を作成する。</b>				
積極的に維持するエリア、手のかからない方法で管理するエリアをどのように守っていくか検討する。(担い手確保、新たな作物、共同管理の可能性など) ※ p.7 管理構想図を参照	農地検討会	○	○	
土地情報(水源・水路など)を整理する。	農地検討会	○		
農地における地域のルールを作成する。	農地検討会	○	○	
中山間地域等直接支払制度の交付金の次期(第6期・R7～11年度)について検討する。	集落協定	○		
農地所有者全員に「田麦野みらい計画」の内容を共有する。	集落協定	○	○	○
<b>【生活環境の取組方針】 いきいき輝く地域を目指し、マルシェを開催する。</b>				
山菜の時期に第1回マルシェ「たむぎのでした～」を開催する。	生活環境検討会	○		
定期的にマルシェを開催し、地域に人を呼び込む。	生活環境検討会	○	○	○
地域内で飲食できるところ(食堂、菓子の販売、キッチンカーの誘致など)を設置できないか検討する。	生活環境検討会	○	○	



## 5. 空き家の取組について



取組方針

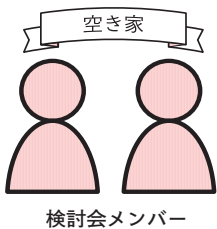
### 空き家の所有者を支援し、移住者の受け入れを促進する。

人口減少が進んでいますが、田麦野地区の移住者は累計 19 人（2015～23 年）。「入れる家があれば人は来る」と考えられます。

里山の暮らしは景観やのどかな環境が魅力的な一方で、草刈り・除雪などをしなければならない、地域活動が多い、など、大変な面もたくさんあります。検討会では、移住者が家を購入した後に「こんなはずじゃなかった」と後悔しないよう、まずは賃貸から暮らし始めてもらうことが理想的という意見が多数を占めました。

しかし、令和 5 年 11 月に実施した所有者への先行アンケートから「たまに帰ってきたい」「売却したい」「活用してもらいたい」「更地にしたい」など、所有者によって様々な意向があることがわかりました。この結果をうけ、まずは活用の意向がある所有者を優先して、地域としてできる限り支援していくことにしました。これから勉強の機会を設けるなど、市役所とも連携しつつ、美しい景観の維持と安心して暮らしていける地域の実現（継続）を目指します。

#### 実施主体の役割



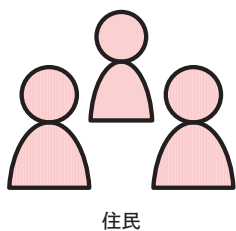
#### 意向をきく

令和 5 年 11 月から都市計画課と連携して所有者に意向アンケートを実施しました。今後も意向の聞き取りを継続的に行います。

#### つなげる

意向アンケートに「売りたい」「貸したい」「活用したい」と回答した所有者と話し、相談窓口や空き家バンクにつなぎます。

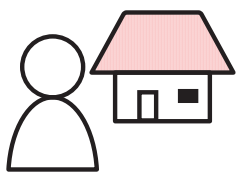
#### みなさんへのお願い



住民

#### 将来について話を

家は訪れる人がいなくなるとどんどん荒廃していき、活用したいと思った時には時既に遅く修理に多額のお金がかかることも。「空き家になったらどうするか」あらかじめご家族と話し、いざという時に困らないよう方針や相続人を決めておきましょう。



空き家の持ち主

#### 定期的にお手入れを

数か月に 1 回は換気を行う、冬は雪下ろし・雪囲いをする、夏は除草するなど、きちんと手入れを行うことで家は長持ちします。逆に放置してしまうと動物のすみかになったり、周囲の家に迷惑をかける危険性があります。また、いつでも使える状態にしておけば災害時の避難場所としての活用も期待できます。居場所の 1 つとして考えてみてはいかがでしょうか？

#### 相続の確認を

きちんと相続手続きを行わないと時間とともに所有権を有する者がどんどん増えていきます。活用したい人が現れた時や何かあった時、相続人一人一人に連絡や承諾を得るのは骨が折れます。山形地方法務局（山形市）にて登記を確認し、司法書士に登記を依頼し、確実に移転登記の手続きをしましょう。

令和 6 年度から登記が義務化されます。（3 年以内に登記しない場合、10 万円以下の過料が発生します）

## 田麦野地区の空き家の現状

地区内の空き家は27戸確認されています（令和5年8月現在）。

管理されているものとされていないものがほぼ半々の割合で地域内に点在しています。年に数回の換気・雪下ろし・除草等を行っている空き家は状態がよく、無人でもすぐに使える状態が維持されています。

一方、きちんと手入れされていない空き家は、獣のすみかになる、水回りが使用不能となるなどの損壊が見られます。現段階で大きな被害は確認されていませんが、改善が見られない場合、近隣の家に被害が及ぶ恐れもあります。

### 田麦野地区 空き家現況図

防犯の観点から、  
空き家現況図は記載をしております。

## 空き家関連の補助事業について

天童市では、空き家の活用に要する費用の補助を受けることができます。令和6年1月に開催した空き家の検討会で、当地区の空き家で活用できそうな補助事業について勉強会を開催しました。その時に得られた情報は次のとおりです。住民、所有者が広く活用し、空き家の解消を図ると同時に、今後検討会でも市と連携して補助事業の周知に取り組んでいきます。

### 中古物件等取得支援事業費補助金

対象：①（移住者）自己の住宅利用を目的とした中古物件の取得に係る売買契約を締結し、かつ、当該中古住宅等に転入し、又は転居した方⇒30万円

②（所有者）自己が所有する中古物件等を住宅として貸し出すため、当該建物の一部を改修する方  
⇒改修に係る経費（補助率3分の1）、上限15万円

### 空き家利活用支援事業費補助金

対象：（移住者）転入し、自ら住居もしくは利用する目的で、空き家バンクに登録された建物を購入する（した）方

⇒①改修…改修に係る経費（補助率3分の2）上限80万円、

②引越し…改修に係る経費（補助率3分の2）上限10万円

### 空き家除却事業費補助金

対象：（所有者）空き家等の所有者、所有者の相続人、所有者又は相続人の委任を受けた者

⇒空き家の除去に要する経費（補助率3分の2）上限80万円

※令和5年度現在。詳細は市の都市計画課都市再生係へお問い合わせください。

## 6. 農地の取組について



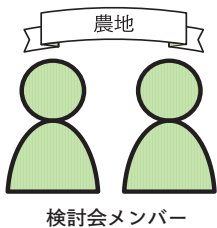
取組方針

農地を守っていくため、より具体的な行動計画を作成する。

農地の検討会では、市が実施した農地意向調査の結果等を踏まえ、10年後も耕作が見込まれる農地、農業振興地域、集落協定の区域、耕作物などを地図上にマークした後、今後管理するうえで手をかける度合を3段階に塗り分けた「管理構想図（農地）」※を作成しました。広範な情報を地図に落とすことで、「今後も耕作される農地はどこか」、「耕作する区域を守るために、どこをどの程度管理するべきか」など、おおよその意見を集約することができました。

米作のほかに、そばの栽培、農地の集団管理など、これまでの取組を踏まえながら、関係団体と連携をとり、近未来の担い手の減少を直視して、今だからこそ話し合うべき新たな管理方法などについて検討し、可能な限り農地の保全に取り組みます。

### 取組の内容

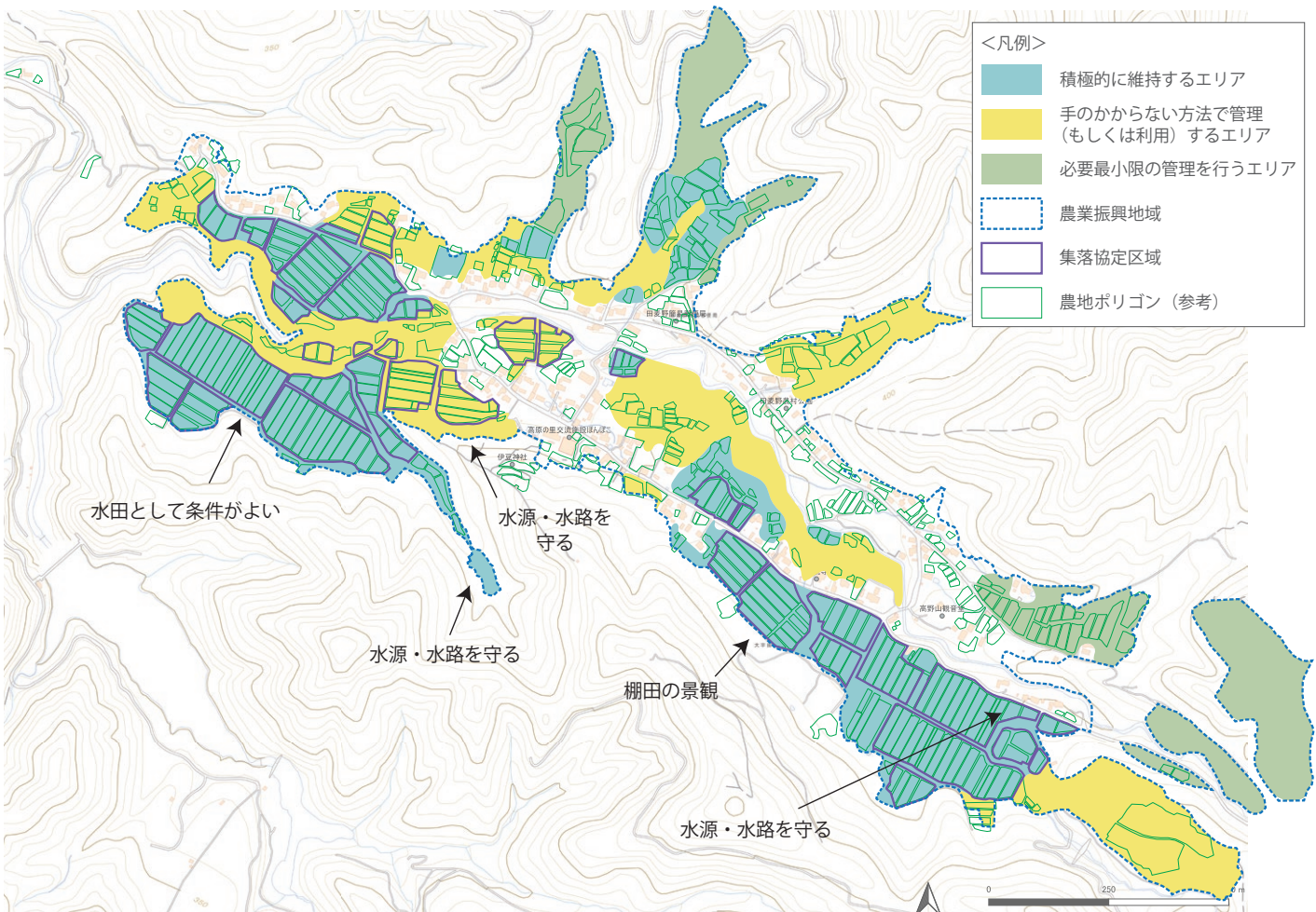


検討会メンバー

#### 地区の農地の未来像を具体的に検討する

「管理構想図（農地）」※の「積極的に維持するエリア（青）」「手のかからない方法で管理するエリア（黄）」を守るために、担い手の確保（人選）、新たな作物や共同管理の検討、地域ルール作成など、耕作地を維持する観点から今後の管理方法を検討します。その内容をもとに地域の方々及び関係者に協力を呼びかけます。

田麦野地区 管理構想図（農地）※



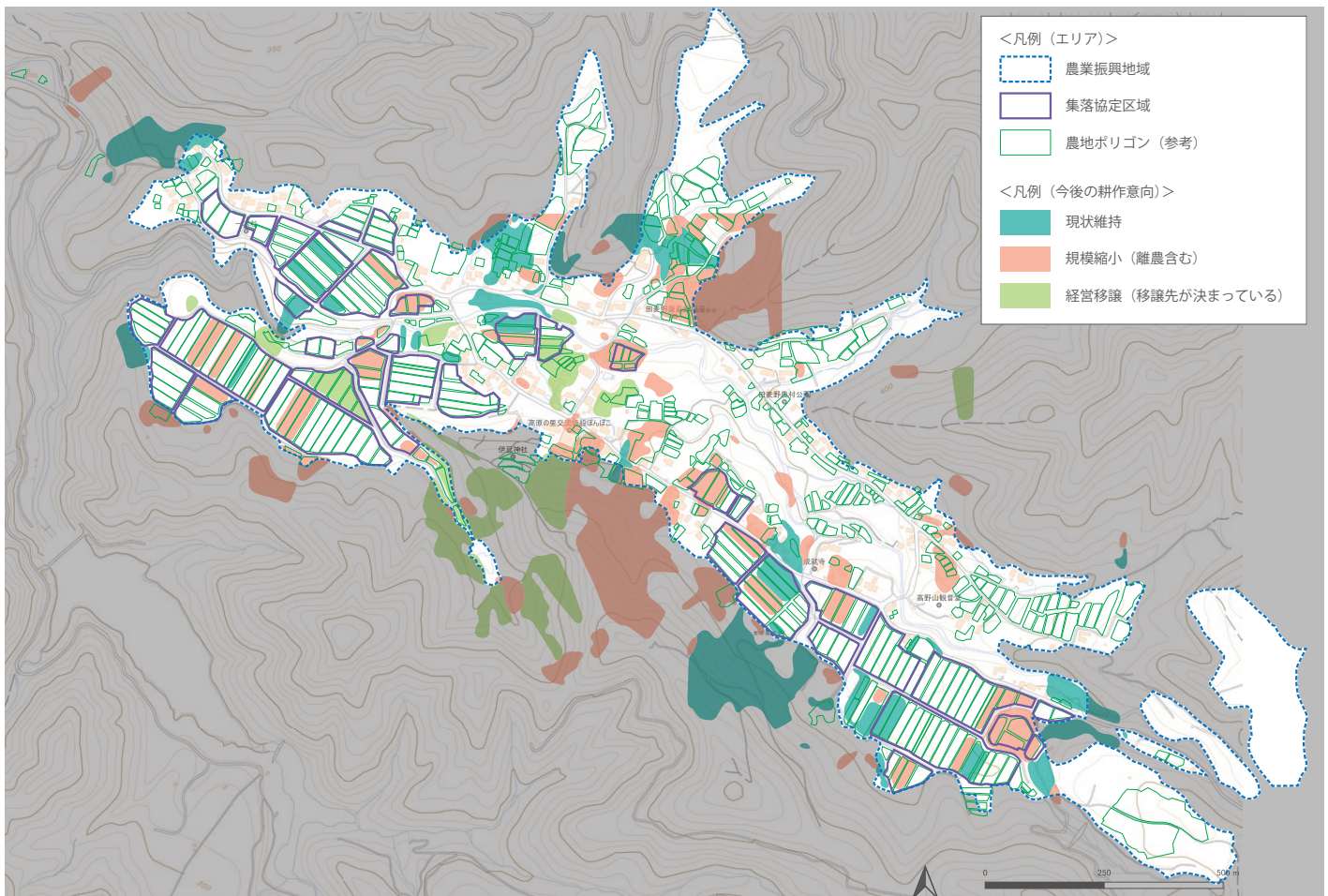


## 農地の現状

地区内の農地は主に水田と畑で、米のほかに、そば（でわかおり）、高原ねぎ等が栽培されています。昭和前期まで養蚕業が盛んで、その生産基盤として整備された桑園が放置され森林化している農地もみられます。

現在、団体によって又は個人によって草刈りが行われ、そば栽培研究会がそばの栽培を手掛けるなど、熱心な取組が行われています。しかし、高齢化、傾斜地であることによる生産コスト高、担い手不足による耕作放棄地の増加などの課題があります。また、今後の耕作の意向についても「規模縮小」の回答が目立ち、これまでの管理方法でこれまでと同様に農地を維持していくのは難しい状況にあります。

田麦野地区 耕作意向図（令和5年現在）



## 農地の関連団体・制度

〔集落協定〕…集落の農業者等（農業法人含む）が農業の生産が不利な地域（中山間地域等）において交付金を活用して、農業生産を継続していくための取り決め（協定）。5年以上活動を継続する必要がある。田麦野地区では水路・農道等の保全管理、鳥獣害防止対策等に取り組んでいる。

〔山口・田麦野土地改良区〕…土地改良法の規定に基づいて設立された公法人。農道・用排水路・ため池等の施設の設置・更新・維持管理等を行う。田麦野地区では、機械耕作等に向けて整備されたほ場の維持管理を行っている。

〔財産区〕…市町村の一部地域（住民）が入会林野やため池等の財産又は公の施設の管理を行うことを法律的に認められた団体。田麦野財産区は、地区周辺の山林を管理している。地区住民が構成員となり、その管理・運営等は財産区議会が決定権を有している。

〔農業振興地域〕…農業振興を図ることが必要な地域として知事が指定した地域。そのうち将来にわたって農業上の利用を確保すべき土地として市町村が設定した区域（＝農用地区域）の農地（＝農振農用地）は「青地」と呼ばれ、原則として農地転用ができない。

## 7. 生活環境の取組について



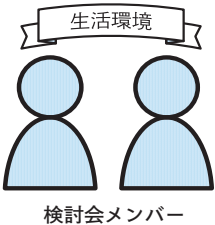
取組方針

いきいき輝く地域を目指し、マルシェを開催する。

一口に「生活環境」といっても範囲が広く、現在も行政と連携して様々な取組が行われています。引き続きそれらに取り組みとともに、新たな活動として「資源の活用」「生きがいつくり」について話し合いを進めました。

自分の手でつくった(収穫した)ものを販売する「産直」があるとよい。加えて、外から人を呼び込み、多くの人にこの地域を体感してもらうことで移住のきっかけをつくりたい、里山の知識・ノウハウを継承する場をつくりたい、将来的には空き家を有効活用して…と、この地域にはまだまだ様々な可能性が秘められています。それらの実現に向け、まずは定期的にマルシェの開催を目指すこととしました。

### 実施主体の役割



#### マルシェをひらく

マルシェの実施主体となるサークル※を令和5年12月に結成しました。田麦野産の野菜・山菜や、住民の皆さんが作ったものを販売するマルシェを開催します。

※サークルについて

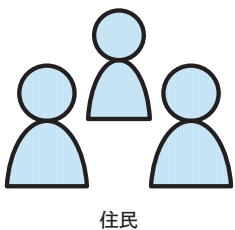
サークル名：ke・たむぎの

※山形弁で「食べて」を意味する『け』と、イタリア語で「なんて～なの!」を意味する『Che』を掛け合わせ、「田麦野の美味しいもの、素晴らしいものを味わってほしい」という思いから、このサークル名を決定しました。

#### 他の検討会との連携

産直は農業や家庭菜園に取り組む方々の励みになります。また、マルシェ会場として空き家を活用する、空き家の片付けの一環としてフリーマーケットを行う…などのアイデアを他の検討会の方々と連携しながら実現していきます。

### みなさんへのお願い



#### マルシェにご協力を

マルシェの開催を通して、私たちが好きなこと・得意なことを生かし楽しめる場をつくっていきます。また、外部にこの地域の魅力を発信する機会にしたいとも考えています。サークルの構成員だけでなく、地域みんなで一緒にマルシェを盛り上げていきましょう。



# 8. 資料

## 検討の記録

### 第1回田麦野の「みらい」を考える懇談会

令和4年8月26日（金）開催 32名参加

- ・本事業の目的についての説明
- ・グループワーク（今回の取組について期待すること、参加動機）
- ・地域づくり委員会で行ったアンケートの結果についての意見交換



### 第2回田麦野の「みらい」を考える懇談会

令和4年11月26日（土）開催 23名参加

- ・田麦野の強み、弱み、活用可能な資源、今後不安なことを書き出し、全体で共有



### 第3回田麦野の「みらい」を考える懇談会

令和5年2月12日（日）開催 24名参加

- ・田麦野の強み・活用可能な資源を生かしながら、弱み・今後不安なことを改善していくための『提案』を考える



### 第4回田麦野の「みらい」を考える懇談会

令和5年7月8日（土）開催 19名参加

- ・前回出し合った『提案』をまとめた「行動計画整理表」の手渡し式
  - ・今後力を入れて取り組むテーマの選択
- ⇒住民全員へアンケートを実施、①空き家 ②農地 ③生活環境 に決定し、検討会のメンバーを決定



## 検討会：空き家

【第1回】令和5年8月31日（木）開催 8名参加

空き家についての『提案』を出し合い、所有者への意向アンケート調査の実施を決定

【第2回】令和5年10月18日（水）開催 6名参加

意向アンケート調査の結果共有、「所有者支援」の方向性を決定

【第3回】令和5年12月16日（土）開催 4名参加

地域としてできる「所有者支援」についての検討

【第4回】令和6年1月19日（金）開催 8名参加

空き家関連補助事業の勉強会を実施、追加で実施した意向アンケート調査の結果共有、「田麦野みらい計画」内の行動計画表及び空き家の取組についての記載内容の検討



## 検討会：農地

- 【第1回】令和5年12月16日（土）開催 5名参加  
今後の農地活用について考えるワークのやり方を確認
- 【第2回】令和6年1月20日（土）開催 9名参加  
若手も含め、今後の農地活用について考えるワークを実施
- 【第3回】令和6年2月2日（金）開催 9名参加  
耕作意向図をもとに、積極的に維持するエリア、手のかからない方法で管理するエリア、必要最低限の管理を行うエリアに色分け  
今後の取組について確認



## 検討会：生活環境

- 【第1回】令和5年9月1日（金）開催 7名参加  
生活環境の整備について『提案』を出し合う
- 【第2回】令和5年10月20日（金）開催 6名参加  
今後メインに取り組む事柄を「生きがづくり」に決定
- 【第3回】令和5年12月16日（土）開催 5名参加  
マルシェの実施を決定、場所・時期・主催団体等についての検討
- 【第4回】令和6年1月22日（月）開催 5名参加  
「田麦野みらい計画」内の行動計画表及び生活環境の取組についての記載内容の検討、会則の検討、マルシェの具体的な内容の決定



## 田麦野の「みらい」を考える懇談会 報告会

- 令和6年3月15日（金）開催 23名参加
- ・各検討会で決定した取組の方向性及び行動計画の報告
  - ・「田麦野みらい計画」の内容に関して、承認を得た





# 行動計画整理表

この計画整理表は第3回田麦野の「みらい」を考える懇談会（R5.2.12）で参加者より提案された「提案」の一覧です。今後の活動の「ネタ帳」となるものです。

## 『田麦野地区』行動計画整理表

2023年3月10日時点の計画

計画反映	項目	地域管理構 想用分類	キーワード (ヒントシート より)	着手時期			役割分担・主体						実施移行時点での 留意点や障害など	継続 評価	具体的中心組織 (連携する相手)	
				すぐ	5年 以内	時間を かけて	個々の 住民	組織や 団体	地域ぐ るみ	組織間 連携	地域間 連携	行政と 連携				行政
<b>【自然や景観を活かす提案】</b>																
	嫌なものを楽しめる逆転の発想で、サルを観光資源にする(サル山)		鳥獣害対策	○												
○	川沿いの杉の木を伐採して、ゲストハウス用のログハウスをつくる。(景観も改善されて一石二鳥)	杉林の管理	川沿いの杉		○							○				
○	川沿いの杉をいかして、アートや燃料として活用したい	杉林の管理	川沿いの杉		○							○				
○	棚田で写真撮影や絵描き、ライトアップ、写真コンテスト、ホテル鑑賞会などのイベントをする。棚田20選の美しさを活かして賑わいを生む	農地を使う	棚田	○							○	○				
○	耕作放棄地に花を植えて、北海道のランデブー畑のようにする	農地を使う	耕作放棄地	○							○					
○	里山を守るイベントや活動を行いながら、移住者を増やす活動をしていく	里山の活用・管理	里山	○								○				
○	山形百名山である「面白山登山」を春・夏(山の日)のイベントとして開催し、ピアノ・ヴァイオリンのコンサートを開く	里山の活用・管理	山	○								○				
○	山林を活用するための炭焼き体験や竹工芸のイベントを開催する	里山の活用・管理	山	○								○				
○	活用できていない山や川に、子どもたちが楽しく遊べる場所をつくり、人を集める	里山の活用・管理	山川	○									○			
○	かぶとむし、くわがたむしが住みやすい環境をつくり、子どもたちが採りに来るまちにする	里山の活用・管理	生き物	○								○				
○	つりがしたい(魚がいなくなるのが心配)立ち寄れる場所をつくる(森の駅的な)	里山の活用・管理	生き物	○								○				
○	豊かな自然を守るための会社をつくり、雇用をうむ	里山の活用・管理	自然	○								○				
○	地区内の森林を整備して、きれいにする	里山の活用・管理	森林	○								○				
○	遊歩道を活用して自然体験をする	里山の活用・管理	遊歩道	○								○				
	流星群の時、天童高原でのイベントを行う		天童高原	○								○				
○	星空や山菜ト리를楽しんでもらうために、民泊(ツアー付き)をつくる	施設をつくる	山菜	○								○				
	収入源確保のため、山菜、野菜、米をネットで高めに販売して、地区内に仕事を増やす		農産物	○								○				
○	景色が見れる公園をつくる	施設をつくる	ビューポイント		○								○			
○	雪を利用した冷蔵施設をつくる	施設をつくる	雪		○							○				
<b>【農業や産業を守り興す提案】</b>																
○	棚田を保全するための草刈りを地域で行うため、農業法人・企業を立ち上げ、農地の保全、生産、販売をビジネス化する(仕事として、アルバイトとして)	農地を使う	棚田	○								○				
○	棚田の保全を守っていく(おいしい米を作っていく)	農地を使う	棚田	○								○				
○	棚田米の米粉を使ったお菓子の販売	農地を使う	棚田	○									○			地元のお菓子作りの上手な人
○	水田の一部を酒米用にして、限定の日本酒を販売する	農地を使う	特産品	○								○				
○	田麦野の米を活かして酒造をつくる	施設をつくる	特産品		○							○				
	田麦野地区限定のふるさと納税を始める		特産品	○									○			
○	きれいな水を活かし、わさび田をつくる(新しい特産品を生み出す)	農地を使う	特産品	○								○				
○	土日、祝日に、山菜採りや山菜料理を振る舞うなどのイベントを行う	里山の活用・管理	山菜	○								○				



○	空き家をリノベーションしてカフェをオープンしたい	空き家を使う	空き家	○						○	○								
○	空き家を解体したりリフォームする条例を設置	空き家を使う	空き家	○									○						
○	賃貸住宅がほぼないので、移住者のための定住のための点でも、一人用・ファミリー用の物件を整備したい	施設をつくる	空き家	○									○						
○	あるものを使い、高齢化対策にもなり、仕事も生まれるため、公民館を改装して老人ホームをつくる	施設を使う	高齢化対策	○									○						
○	地区内の人のための高齢者用のシェアハウスをつくる	施設をつくる	高齢化対策		○								○						
	ドクターヘリポートを整備する		医療	○															○
	お医者さんの常駐		医療	○															○
	フルタイムで相談できる医療体制をつくる		医療	○															○
	簡易救急隊を設置する。待つのではなく、病院まで運び出すことで、死亡率を上げる		医療	○															○
	薬を飲まなくてもよい方法はないものか。病院や、薬が買える場所をつくる		医療	○															○
	田麦野地区に移動販売車を運行させて買い物ができるようにする		買い物	○															○
	地区内にスーパーやコンビニをつくり、中心地まで行かなくても買い物ができるようにする		買い物	○															○
	無人のコンビニやドラッグストアを設置する。または、多機能自動販売機の設置を行う		買い物	○															○
	田麦野地区独自の送迎デマンド車を運行する		交通手段	○															○
	地区で乗り合いタクシー会社をつくり、今よりも多く便数を増やす		交通手段	○															○
	路線バスを誘致し、車に乗れない属性への移住をアピールする。(バスが)通過する他の地区も恩恵を受けることになる		交通手段	○															○ ○
	今後仕事がなくなったらどうなるのかが不安。移動手段も、タクシーでも頼むしかないかもしれない。タクシー以外の交通手段を考えたい		交通手段	○															○ ○
	孤立対策のためにトンネルをつくる		交通手段	○															○
	5Gや6Gのデジタル回線を早期に導入して、若いデジタルユーザーへ移住のアピールをする		移住者	○															○
	地区全体をデジタル先進特区にして、自動運転車や無人店、ドローンなどの実験都市にする。若者の好奇心に期待する(弱み:デジタル後進)		移住者	○															○
○	フリースクール、学童と連携して、子どもたちを連れてきて農業体験を行う	農地を使う	教育	○															○
	子育て支援事業を展開して、地区内の子育てを支援する		子育て	○															○
○	田麦野の裏山で自然を活用した遊具をつくらせ、子どもや親子が遊べるスペースをつくる	施設をつくる	遊び場	○															○
○	各家庭で花を植えてきれいにする	宅地の管理	地域づくり	○															○
<b>【後継者や人材を育む提案】</b>																			
○	耕作放棄地を活用した市民農園を作って、農業体験したい人や地域外の人に貸し出す	農地を使う	耕作放棄地	○															○
○	地域おこし協力隊を採用し、就農者を増やす	農地を使う	農地管理	○															○
○	田・畑を個人でやるのではなく、会社を起こしてやる	農地を使う	農地管理		○														○
	移住者の増加に向け、スローライフ実現により場所という宣伝をする		移住者	○															○
	若者が定住するためには何が大事か、若者から聞き出し、定住者を増やす活動をする		移住者	○															○
	土地が安く広く購入できることを活かして、若い人を呼び込む		移住者	○															○







## 田麦野みらい計画

---

策 定：田麦野地区

(田麦野の「みらい」を考える懇談会)

協 力：国土交通省 国土政策局 総合計画課 国土管理企画室  
天童市 総務部 市長公室

編集・デザイン：土井 友希子（天童市地域おこし協力隊）

